

154号
Winter
2020

まごころ



全国まごころケアネット

CONTENTS

巻頭言 「初釜」

1

孫子老だより

～健康管理はユーモアと笑いで～

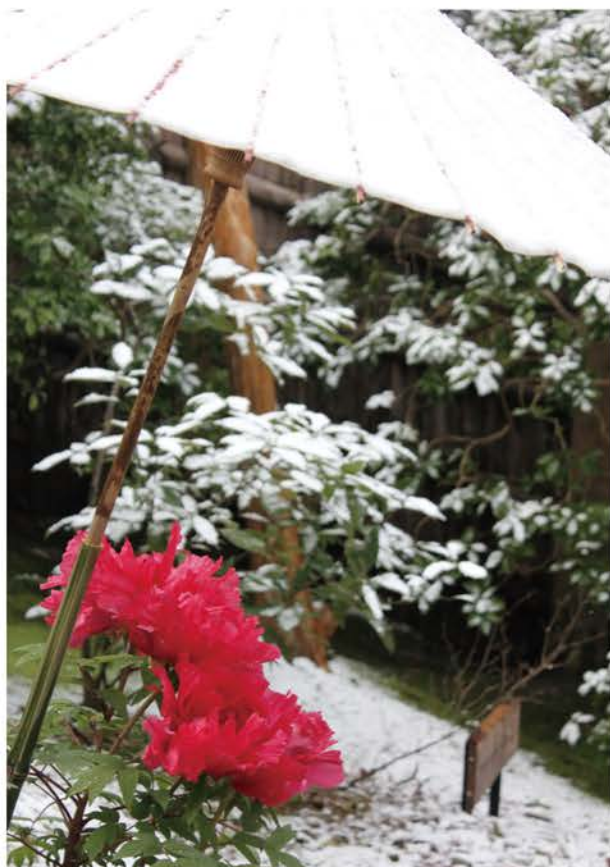
2
～
4

センターだより

5
～
10

寄稿「戦争体験を継ぐ」

11
～
16



雪景色

JMS
(日本ケアシステム協会)

事務局通信

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願
い申し上げます。会報「まごころ」冬号第154号をお届け
いたします。

昨年春以来、世界中の人々が人生初の経験をしています。
一日も早くコロナ感染症の治療薬や安全なワクチンが開発
され、普通の生活が取り戻せるよう祈るばかりです。

国がコロナ対策事業として創設した「新型コロナウイルス
感染症緊急包括支援事業」の申請はお済みでしょうか。香
川県の場合は、早期の支払を期するため令和2年内に申請し
てほしいとの通知がきていましたが、各センターにおかれ
まして、もし申請漏れがあれば所轄とご相談の上速やかに
手続きを進めて頂ければと思います。

令和2年の流行語大賞は「3密」また漢字も「蜜」でした。
寒い時期はどうしても密閉の場所で密集、密接になりがち
です。時々換気しながら密にならないよう感染予防に努め
ましょう。

昨年末に厚生労働省から冬場におけるウイルス感染防止
対策の徹底を求める通知が出されました。特にコロナウイ
ルスは高齢者にとって重症化リスクが高いことから介護事
業者の一層の感染対策の強化が求められています。

また、寒い時期といえども水分不足で脱水症の危険も潜
んでいます。適度な水分補給をしながら、又冬場に多い「ノ
ロウイルス感染症・食中毒」にも注意しながら本年もお互
いに頑張りましょう。

各センター皆様のご活躍をお祈りいたしますとともに、
ご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。

初 釜



特定非営利活動法人
日本ケアシステム協会
会長 兼間 道子

あけましておめでとうございます。

元旦は、例年、決まって抹茶に饅頭、その後「おせち」を頂く。

2日には、子や孫らが、よほどのことがない限り決まって我が家に挨拶にやってくる。初めての孫が今年二十歳になるから今年で20回目の初釜ということになる。お年玉が目当てかもしれない。おせちの重箱は、晴れやかで賑やかだけど、贅沢品でなくても、味噌汁とご飯があれば十分に嬉しい。

普段、我が家二人の朝ごはんは、玄米（香川県小菰の山間で採れた「おいでまい」）に薄めの味噌汁、それに柿栖（庭で育てた柿の皮を瓶に詰めて手塩にかけて熟成）を、ちょっと飲む。洗い物がすんだら慌ただしく車で出かけるのが日課だ。

車のエンジンをかけると同時にFMが流れる。それは、とても優雅で安堵した気分にさせてくれる。音がスピーカーから流れ出るとき「ああ、生きていてよかった」と大げさに思う。優しく流れる名曲の数々、時にはジャズに足と首を振って明るい気分にさせてくれる。「G線上のアリア」に息子の奏でるフルートを思ったりする朝もある。

音楽は、私の人生にとって、その都度、役割を果たしてくれた。サムテラーがサックスを吹かなかったら夫との出会いもなかった。車両にスピーカーを取り付けて音が奏でるように仕組んだのは誰か、音楽好きな人が考案したのだろう、何と感謝だろう。高齢者運転が問題視されるこの頃だが、いつまで運転を許されるのか。名曲を聴きながら「今日一日怒りません」と我が心に言い聞かせながら安全運転を心がけた1年だった。

今年の柿の実はいつもより華奢で清々しい。好きな華道もやがて体力が許さなくなるだろう。それまでは、周囲を心配させない程度にぼちぼちやろうと思う。

共に生きるすべての方へ「幸多かれ」と心から謹んで祈る。今年もご指導ご鞭撻をお願いします。

まごころ 孫子老だより

健康管理はユーモアと笑いで

あけましておめでとうござ
います。 みなさま、如何お過ごし
でしょうか、お変わりありませんか。
昨年は、大変な年でした。そろそろ
終息するかと思いきや感染は、拡大
傾向で衰えを見せません。

もう一年近く、福祉、医療の最前
線で働いておられるエッセンシャル
ワーカーのみなさま、本当にご苦労
様です。心より感謝申し上げます。
春のこない冬はありません、ワクチ
ン接種や薬の話題が2021年の一
番のニュースになるでしょう。終息
まであともう少しです。コロナに負
けないよう、皆で立ち向かっていき
ましょう。

世間を席卷した「鬼滅の刃」を見
ることも無く、タピオカドリンクを
一滴も飲むこと無く、次のバナナ
ジュースブームに関心を寄せること
も、出店ラッシュの高級食パン屋を
食べ比べすることもせず。外出は極
力避け、県外居住の愚息たちには、
帰省禁止令を発令し、初詣も隠れる
ように小声で拝み、逃げるように無
言で立ち去り、例年になく静かな正
月です。

景気対策に効果をもたらす「ゴー

トゥー何やら」ですが、前へ進めと
号令を掛けながらスカートの後ろを
踏まれている感じが続いています。
最近では、マスクの付け忘れは、し
なくなりましたが、スーパーの入口
に来て、エコバックを忘れているこ
とに気づき、車まで取りに戻って再
度、買い物が続いていると、ポイン
トカードを忘れてきたことを思い出
し、再び取りに戻って、レジの後ろ
に並んでいると、10倍ポイントの日
が明日だったことに気づき、何も買
わずに帰ったことが2回ほどありま
す。

アラ還が近づくと、 体もあち
こちガタがきています。死ぬまで辞
められませんか。と医者に言われた
コレステロールと中性脂肪の薬に加
えて、年末から血圧を下げる薬が増
えました。わかったぞ、何で製薬メー
カーは、潰れないのか。捕まらない
方のクスリ潰けの毎日です。コロナ
禍で新ネタの入荷も滞りがちです。
そこで様々なサイトで気になった標
語や記事をご紹介します。

『ティッシュと亭主の見分け方』

ティッシュ	亭 主
水に弱い	お水に弱い
鼻をかむ	話すときにかむ
よく使われる	こき使われる
簡単に飛ばされる	しぶしぶ飛ばされる

ティッシュ	亭 主
紙が薄い	髪が薄い
簡単に丸くなる	歳とともに丸くなる
尻を拭く	尻に敷く

『夫を早死にさせる十ヶ条』

- 1 酒をうんと飲ませる
- 2 砂糖菓子をうんと食べさす
- 3 いつも座らせる（運動不足にする）
- 4 飽和脂肪酸をたくさん食べさせる（脂身、内臓、皮、乳製品、卵黄）
- 5 塩分の多い食べ物に馴れさせる

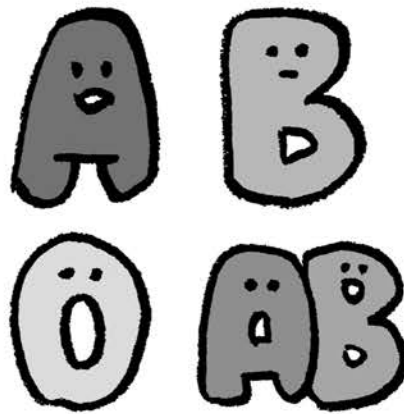
6 コーヒーをがぶがぶ飲ませる
7 タバコをすすめる
8 夜ふかしをさせる
9 休暇旅行をさせぬ
10 最後の仕上げに始終文句を
言っていじめる
この逆を行えば、どんなさまは、
間違いなく長生きされます。合掌。

『長男・長女のあるある』

- ① 実は毒舌
- ② 頼り方がわからない
- ③ つい、はりきる
- ④ どこか抜けている
- ⑤ 思い立ったらすぐ行動
- ⑥ 禿げそうなくらい悩むときもある
- ⑦ ヘラヘラしてても実は悲しい
- ⑧ 「○○しなくっちゃ」感が異常
- ⑨ 一人になれない時間が続くと死ぬ
- ⑩ 独り時間が続いても死ぬ
- ⑪ ケンカや揉め事が苦手
- ⑫ 大丈夫じゃなくても大丈夫と言う
- ⑬ そのくせ大丈夫じゃないことに
気付いて欲しい
- ⑭ 甘えたら心を開いている証
- ⑮ 大好きな人にはデレ9割
- ⑯ 他人の顔色をうかがう

『かに人生十訓』

- ① まず挨拶は、ほがらかに
- ② お蔭さまで しとやかに
- ③ 心はいつも おおらかに
- ④ 気配り肝心 こまやかに
- ⑤ 人間関係 まろやかに
- ⑥ 振る舞う姿は、たおやかに
- ⑦ 夢と希望は、たからかに
- ⑧ ときには装い あでやかに
- ⑨ いつも家庭を うららかに
- ⑩ 若さいつでも すこやかに



『A型人間の特徴』

- ① やる気になるまでが長い
- ② 人のために無理して頑張るのが
好き
- ③ 実はもつと褒められたい
- ④ 全然平気と言っているけど全然

平気じゃない

- ⑤ 無難なところを選ぶ、変な人だ
と思われたくない
- ⑥ 涙もろい
- ⑦ 一度決めたことは曲げない
- ⑧ 中途半端にできない
- ⑨ 5人は嫌い
- ⑩ 3人も嫌い
- ⑪ 基本何もかも、めんどくさい
- ⑫ 些細なことに優柔不断
- ⑬ 責任感が強い
- ⑭ 買物物の成功率が実は五分五分
- ⑮ 好きな人はむちゃくちゃ大切に
する

『B型人間の特徴』

- ① 近づかれすぎると逃げたくなる
- ② 興味の少ないことは基本スルー
- ③ 波長が合わない人と長時間一緒
にいるのは拷問
- ④ 我慢して我慢して我慢して爆発
- ⑤ でも暴れない、無言で去る
- ⑥ やる気を出して突然なくす
- ⑦ こだわりはじめると徹底的にこ
だわる
- ⑧ やる気のある時と無いときの差
が激しい
- ⑨ おだてられると、どこまでもそ

の気になる

- ⑩ とりあえず、なんか、まあいい
やが基本
- ⑪ 他の人にはわからない自分論が
ある。反対意見は大嫌い
- ⑫ 突然どうでもいい事をやってみ
たくなる
- ⑬ 休みの日に、外で知り合いに会う
と、気づかれないように逃げる
- ⑭ 心を開くまでが長い

『O型人間の特徴』

- ① 熱しやすく冷めやすい
- ② 「お腹すいた」「ねむい」が口癖
- ③ 一人の時間がないとダメ
- ④ 寂しくてもダメ
- ⑤ 冷たいのは親愛の証
- ⑥ 説明する時、擬音語が多い
- ⑦ 本当に怒ると沈黙&無視
- ⑧ 変なところで笑う
- ⑨ かまっちゃちゃん
- ⑩ なんか抜けている
- ⑪ 必要とされていないと感じたら
冷める
- ⑫ 苦しくて辛いときは助けてが言
えない
- ⑬ 切れた時は絵文字なんか使わない
- ⑭ 本気で嫌いになったら、その人

の何から何までイヤ

⑮ 機嫌が悪いと想像できないくらい口が悪くなる

『A B 型人間の特徴』

- ① 気分屋で猫気質
- ② 結構変なところで真面目で几帳面
- ③ 気分の浮き沈みが大きい
- ④ 本気になったらたぶん誰にも負けないと思っている
- ⑤ 大人数は嫌い
- ⑥ 好きなものに一直線
- ⑦ 教えるのは面倒
- ⑧ 人の話を聞いているようで実は聞いている
- ⑨ 結構、八方美人
- ⑩ そして割と常識人
- ⑪ 感情表現が苦手
- ⑫ 天才肌だけど変わり者
- ⑬ 努力、我慢が苦手
- ⑭ 思いがけずにもらう、あったかい言葉に弱い
- ⑮ 嫌いなことは、とことんしたくない



『妻が願った最期の「七日間」』

朝日新聞朝刊2018年3月9日
付記事より

1月中旬、妻容子が他界しました。入院ベッドの枕元のノートに「七日間」と題した詩を残して。《神様お願い この病室から抜け出して 七日間の元気な時間をください 一日目には台所に立って 料理をいっぱい作りたい あなたが好きな餃子や肉味噌 カレーもシチューも冷凍しておくわ》

妻は昨年11月、突然の入院となりました。すぐ帰るつもりで、身の回りのことを何も片付けずに。そのまま不帰の人となりました。

詩の中で妻は二日目、織りかけのマフラーなど趣味の手芸を存分に楽しむ。三日目に身の回りを片付け、四日目は愛犬を連れて私とドライブに行く。《箱根がいいかな 思い出の公園手つなぎ歩く》

五日目、ケーキとプレゼントを11個用意して子と孫の誕生会を開く。六日目は友達と女子会でカラオケに行くのだ。そして七日目。

《あなたと二人きり 静かに部屋で

過ごしましょ 大塚博堂のCDかけて ふたりの長いお話しましょ》

妻の願いは届きませんでした。詩の最後の場面を除いて。

《私はあなたに手を執られながら静かに静かに時の来るのを待つわ》容子。2人の52年、ありがとう。

コロナ禍で夫婦の会話が増えたというデータも出ているようです。相手を思いやって、普通の日常のありがたみに感謝しつつコロナが終息するまで頑張っていきましょう。

孫子老太郎



寒冷な場所における

新型コロナウイルス感染防止等のポイント

1 基本的な感染防止対策

- ・マスクの着用（ウイルスを移さない）
- ・人と人の距離を確保（1mを目安に）
- ・五つの場面に注意（飲酒を伴う懇親会、大人数や長時間の飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、居場所の切り替わり）

- ・三密を避ける、大声を出さない

2 寒い環境でも換気の実施

- ・機械換気による常時換気の実施

- ・室温が下がらない範囲で常時窓開け（窓を少し開け、室温は18度C以上を目安）

3 適度な保湿

（湿度40%以上を目安）

- ・換気しながら加湿を（加湿器使用や洗濯物の室内干し）
- ・こまめな拭き掃除

センターだより



まごころケア 旭川センター

旭川センターのコロナ事情

センター長 武田 明子

世界中を混乱に陥れている新型コロナウイルス感染症ですが、旭川も例外ではなく、連日感染拡大が全国に報道されています。2月に始まった第一波では旭川でも感染者が数人出て街中が大騒ぎでした。誰も経験したことのない、目に見えないウイルスに対して何をしていたのか手探り状態でした。利用者の皆様にも注意喚起や旭川センターの方針などのメッセージを発信したり、ヘルパーには毎日の検温の呼びかけ、マスクや消毒液の配布、月一回のヘルパー会議は数人ごとのグループ開催、5月の総会も初めて書面開催をしました。

とはいえ、夏に向かい感染者が減つてくると少し気持ちも緩んできたように思います。一時はマスクも購入できず、手作りマスクが活躍することとなりました。OBがマスクを作って届けてくれたり、正絹の美

しい紐のマスクになるなど手作りマスクもグレードアップしていきました。

しかし、初雪が話題に上る頃、大きなクラスターが発生し、それに伴う濃厚接触者が増加しています。これまでにはない危機感で毎日が重苦しい雰囲気になりました。現在、不織布マスクや消毒液配布の継続、多人数が一堂に集まることを避けて書面によるヘルパー会議、記録簿は月2回に分けて提出することとし、郵送希望者には専用の封筒を用意しました。その分、電話やメールでの綿密な報告、相談を推奨するなど、事務所内での密を避ける取り組みをしています。今はまだ冬の入り口なので思い出した時に窓を開けて換気をしています。さすが厳寒期には窓も凍り付いてあかなくなりまします。いつ終息するか分からない脅威ですが、次回の会報には明るい話題で全国の皆様とお会いしたいと願っています。



まごころケア 塩釜センター

「竈」について

坂井 美香

あけましておめでとうございませす。

昨年は暗いニュースが多いと感じた一年でしたが、今年は明るいニュースであふれ、皆様がお元気で過ごせるよう祈っております。

さて、まごころサービス塩釜センターは宮城県塩釜市にあります。最近この「竈」という字が話題になっています。「鬼滅の刃」の記録的な大ヒットによって、主人公の竈門炭治郎（かまどたんじろう）の苗字を読める小学生は少なくないそうです。塩竈市と竈門の「竈」は同じ字を使用しています。

一般的には画数の少ない「釜」が多く使われています。実は私も「竈」は正しく書くことができません。しかし本来は、塩竈の地名の由来でもある海水を煮て塩を作る「かまど」を意味する「竈」こそふさわしいということで、塩竈市の公文書で

は「竈」を使うことになっています。

塩竈市では、この漢字を市民に覚えてもらおうと二十年以上前からホームページで正しい書き方を公開しています。このサイトの閲覧数が多い日には十倍以上に増えているそうです。「鬼滅の刃」の時代設定と同じ大正時代の建物も存在し、国の重要文化財に指定されている塩竈神社も多賀城の城から見て鬼門の位置にあたるということで、崇敬を受けていたといえます。

塩竈市民として、このように注目されることを嬉しく思いますし、機会があれば皆様にもぜひ見て感じていただきたいと思います。そして私も正しい「竈」を書けるよう練習したいと思います。



書き順

まごころケアサービス 福島センター

再開した第四十六回の孫子老食堂

理事 須田 弘子

令和二年三月～九月迄休止していた孫子老食堂を再開、勿論コロナウイルス感染症対策もしっかり構じました。毎月第四金曜日と定め、食を通じて地域みんなの居場所として開放。十月は大人二十五名、子ども十七名でした。

四月よりまごころ・どんぐり学童クラブは、当法人施設内に移転。親子の参加に加えて高齢者、スタッフも含み賑わいました。「広い会場を二つ設営、調理に細心を払うと共に料理は個別の皿盛り。室内環境の除菌、清浄、換気。入場時のマスク着用、手洗い、消毒、体温チェック、会話は控えめに、食事を終えた方から退席して頂くなど密集、密接、距離を取るなどし、表示も念入りにしました。

通常なら二時間以上、ゆったりと会話を楽しみ情報交換等のひとときであったのです。



子ども食堂のポスター

「この日のメニューは、さつまいもご飯、具沢山の豚汁、高湯の里で採れた野菜サラダ、福島のりんご、柿のフルーツ、毎月差し入れて頂くアイスクリーム（枝豆・ブルーベリー・抹茶）みなさんに美味しいと喜ばれ笑顔が溢れ私達も本当に嬉しい限りでした。（一般財団法人）ふくしま未来研究会（ご支援者）参事

の山尾良平様、福島民報新聞社記者石塚花音さんとも同席、活動の一端を理解して頂きました。ピンチはチャンスと申します。私たちはコロナに負けず、体力をつけ地域と繋がりを保ち、これまで出来なかった事を見つけ、実践していく機会と促えています。

私はこれまでと大きく違う、新しい価値観や生活様式の変化を意識します。まごころサービスは、『愛の普通化運動』と言われた日本ケアシテム協会会長、兼問道子さんの

三十年前の言葉を改めて噛み締めています。これからも会員共々市民活動を継続して参りたいと思っております。

まごころケア 国分寺センター

センター長 川上 美佐子

はたるの里デイサービスのご利用者様で、長寿番付け一位・二位の二人は九十九歳のK男さんとF子さんです。F男さんは、にこにこといつも穏やかで、物静かでダンディな男性です。頭脳明晰でとても九十九



歳には見えません。

一方F子さんは何度も入退院を繰り返しましたが、気力で頑張っておられ、移動は杖で頑張っておられます。F子さんは耳が少し遠いのですが、大きな声でよく笑います。その笑い声に皆元気をもらっています。K男さんはいつもニコニコ笑顔に皆ほっとします。お二人の笑顔はその場の空気を和ませ、周りの人々の心が癒されています。

長生きの秘訣その一は心から笑うこと。その二は与えられた環境の中で前向きな姿勢を保つこと。その三はマイペースを保つことではないか



と思います。利用者の皆さんお一人お一人にスポットライトを当てて、それぞれの人生を観させてほしいと思うくらい、深い人生をお持ちです。人間って素晴らしい。生きるって素晴らしい。

この場所で知り合い、友達になり、お互いの健康を気につけ、喜びを分かち合う。はたの里が「私もここに来たい」と、思ってもらえる場所であり続けたいと思います。

まごころケア にこにこ三豊センター

実務者研修を受けて

石川 八重子

今回、にこにこ三豊から六名の方

が、本部開催の実務者研修に参加しました。

訪問介護、デイサービスで働いている人、調理員として働いている人、まごころサービスのみで働いている人と様々です。資格も、社会福祉士や二級ヘルパーを持っている方もいます。

通信ですが座学では、計画書、手順書、喀痰吸引、経管栄養を学び、非常に難しかったです。

どれも大切な事で、無責任な事は出来ない、怖いなあと思いました。

しかし、実際にしているケアとながらる事もあり、勉強になりました。他に参加された方も、みんながやっている事を見たり聞いたりしてもピンとこなかった事が、分かるようになりました。とか

先輩から教わった、利用者さんへの接し方も、どうしてそのように接するかを、理論づけて理解することが出来ました。

参加された皆さんの仕事の話も聞けて、大変勉強になりました。

先生が合間に教えてくれる雑学も、笑えたり、考えさせられる内容でした。

参加された皆が、研修で学んだことを現場で生かして、これからも経験を積んで、利用者さんの気持ちに寄り添えるケアをしていきたいと思っています。

六名のうち三名が今年度の介護福祉士試験に挑戦します。



まごころケア 屋島やすらぎセンター

年を重ねて思うこの頃

寺川 麗子

昨年はあつという間に過ぎ去った一年間だったように思う。コロナ禍

で始まりコロナ禍で終わりそうな状況だ。これまで普通に生活していた事がいかにありがたいことだったのかと感じるこの頃です。

毎年楽しみにしていた旅行にも行けず、子供や孫たちの来訪もなかった。又、春に久々に来るのを心待ちにしていたホームステイで一年間受け入れたSerena（イギリス在住）一家とも会えなかった。ただ遠出もせずグループ活動（おはなし会など）も少なくなった反面これまで歩んできた75年（1945年生まれ）を振り返る時間ができた。バタバタと日々過ごしていた時にはあまり思いつくこともなかったことがとても懐かしく楽しいこととして思い出された。

奈良にいた子育て中には母親もしっかり学んで（遊びも含み）大人の女性として頑張ろう！と「あすなろ婦人学級」を立ち上げた。（若くて前向きで元氣な仲間たちだった）「あすなろ」とはがんばって明日は大きな檜になろうという思いでグループ名をつけた。町内の8グループの婦人学級の人達とは空いてる日はお互いに保育ボランティアとして

子供たちを見守っていた。

そしてその中で万葉集に興味を持つている人たちで万葉グループ「まほろば」を立ち上げ月2回お寺の本堂で講義を受けながら散策をしていた。講師はお寺の住職（元国語教師）。

自分たちも短歌を作りみんなで詠みあった。何よりも楽しかったのは万葉の地、二上山の麓に住み飛鳥路などへの散策だった。講師の住職は84歳になった年に沖繩の戦跡へ慰霊のお参りに行かれるほどお元氣でなかなかの情熱家だった。万葉集の話だけでなく政治のこと、社会一般のことなどとても前向きに話して下さり楽しい「まほろば」の会だった。

香川に移り住み38年になるが今でもその頃に勉強？したり遊んだ数人とは交流がある。関西に出かけたときには奈良にも立ち寄っている。でもコロナ禍の今年はでかけられず電話で話すのみ！「また会おうね」と言葉をかけあつて少し楽な気持ちにはなっている。

先日は「どこへも行けないと思っ
ているだけでは気が沈むので2人でも
いいから紅葉でも見にいきましょう

う」声をかけてくれたMさんとかけた。「紅葉もいいけど見晴らしのいい所でランチでもしましょう」と高台に建っているランチカフェ（鳴門）に行ってきた。

海を眺めながらゆっくり食べ、おしゃべりをして楽しい時間となった。「コロナが収束したらみんなでここに来ようね。そして楽しいことをみつけて頑張ろうね」とMさんと話し合った。久々に元氣をもらった一日だった。

これからも元氣で楽しく前向きに日々過ごすことが一番だと思っ
て
いるこのごろです。

まごころサービス 徳島センター

新型コロナウイルスと黄色い花

両角 千鶴子

昨年の春から騒がれ始めた新型コロナウイルスの感染状況の拡がり
が
日々のニュースに報道されるよう
な
りました。コロナ、コロナで大騒
ぎの年でした。

阿波踊りも中止、コンサートも中

止。早くコロナウイルスが収束して元の生活にもどることを願うばかりです。

ステイホームで家にいて読む本も断捨離や片付けの本ばかりです。自分が作る出した物は自分で片付けなければ・・・と思うものの少しくらい残してもいいかなと思うようになりました。私には娘が二人、息子が一人います。息子の嫁が昨年の夏出産したばかりなので、私の荷物の整理は二人の娘にまかせましょう。

十一月下旬に咲いていた黄色い花。名前が出てこないのがなんだったかな？と思っていました「ツワブキ」という名前だと思い出しました。

「ツワブキは 故郷の花 母の花」
坪内稔典氏の句です。（ラジオ深夜便 平成二年版）十二月五日の花として載っていました。

正月らしい花の句を記します。

福寿草 家族のごとく かたまれり

この花も黄色の花です。

福田蓼汀



まごころケア 西春日センター

久しぶりの外出

センター長 笠井 圭介

みなさま、お変わりないでしょうか。まごころケア西春日では、去る令和二年十一月九日の午後、デイサービスの利用者様が、峰山公園で歩行訓練を行いました。晴天で寒さも和らいでおり、訓練には最適な日でありました。峰山公園に着くと、辺り一面にきれいな紅葉が広がっており、利用者様は口々に「きれいなね。」



「感動した。」等感想を述べあっていました。確かに見事な風景でした。

新型コロナウイルスの発生により、行事も自粛せざるを得ない状況が続き、利用者様には不自由な日々が続いていますが、この日は皆さん晴れ晴れとした表情をしておられました。これからもできることがあれば可能なかぎり新メニューを提供していきたいと思っています。

ところで、この原稿が掲載されている頃は、コロナウイルスは終息しているでしょうか。それともまだ終息は程遠い状況でしょうか。これを

書いている今日（令和二年十一月二十一日）は感染者が東京で一日に五百人を超え、全国では二千人を超えたというニュースが入っています。一日も早い終息を願っています。

どうか皆様が健康に守られ良き一年となりますようにと願っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



まごころケア 高松センター

福家 茂雄

私たち介護支援専門員同士の話題の中から2つほどご紹介します。

一つは、身近な家族でもご本人（ご利用者）の状況をよく把握できないことがあるケースです。

父親とは別居ですが、近所に住む娘さんから「しっかりしているけど一人暮らしなのでお風呂の世話をしたい」との依頼がありました。

そこでご利用者本人に直接お会いしてお話を伺おうとしたところ、時間を約束してもなかなかお会いできず、その後よくお話を聞いてみると食事や通院がしっかりできていないことや、届いた郵便物の内容がよく理解できていない、食べられないほどの弁当を毎日注文していたことなどが分かりました。明らかに認知症の症状が見られたのです。

娘さんご自身の仕事の関係でいつも特定の曜日の同じ時間にお父さん宅を訪れるので、ご本人が自室でのんびりと最も安定した状態ばかり



ら、適切なサービスが受けられるよう努めたいと考えています。

もう一つは、高齢のご利用者が病院で医師から診断結果や病状の説明などを聞く、またご自身の状態を医師に伝える時のケースです。

家族が付き添えば問題ないのですが、出来ない時あるいはご家族と一緒に介護支援専門員も立会してほしいと依頼されたとき、立ち会うことがありますが、そのような時は、ご本人の健康状態を把握するよい機会だと思っています。

医師から直接、丁寧に話を聞くことができますし、ご利用者の状況変化等をお伝えしたりすることで私たちと医師の間にも信頼関係が生まれます。

また、医師だけでなく、窓口となつて下さる看護師、薬剤師、医療連携室やMSW（医療ソーシャルワーカー）らの専門職とも信頼関係が築ける点でも有効だと思います。

それらの人から頂いた情報をもとにご本人に今後どういうサービスを提供すべきかなど、対応方法が具体的に见えてくるがあります。

今後はご本人の意向を確認しながら、適切なサービスが受けられるよう努めたいと考えています。

れない顔と顔を合わせる中で生まれるものだと思います。

これは他のサービス事業所との対応でもいえる事です。

ご利用者に関わっている専門職らの連携や絆が深まる事が利用者様にも私たちにとても大事なことでと思います。



香川県シェイクアウトに参加しました。

昨年11月5日、午前10時に「香川県シェイクアウト」に参加しました。

これは県民いっせいで地震防災行動訓練のことです。机の下に隠れたり、身をかめるなどの安全確保行動をとり、自らの身を守るという時間もと、手間もかからない簡単な訓練ですが入所者や職員などの防災意識の向上に効果的であるといわれています。

近年の調査によると負傷者の3割

5割の方は屋内の家具や家電の転倒、落下によるとの結果がでているそうです。

今後私たちの地域では、南海トラフを震源とする地震が想定され香川でも被害が懸念されています。

主催した県では今回は「プラスワン訓練」として、家具類の転倒防止に合わせて取り組んでほしいのとことでした。

災害は忘れたころにやってくるといわれています。コロナに気をとられ少し意識が薄れていたのかなと反省しました。



寄稿「戦争体験を継ぐ」

寄稿者：野上 さくら



太平洋戦争が終わり今年で76年目を迎えました。実際に戦場に赴いた方々はもとより、子供時代に戦争を体験された方々も徐々に少なくなりつつあります。

これらの記憶を風化させることなく後世に語り継ぐと、高校の卒業研究（卒業プロジェクト）のテーマとして取り組んだ研究成果をシリーズで紹介しています。

第三章 戦争経験者

インタビュー

第七回 インタビュー記録

「裕福な生活が一変」

高橋 和子さん 1

一九三二年、高橋和子さんは兵庫県芦屋市に裕福な家庭の第二子として生まれ、その二年後満州に渡った。父が満州中央銀行の重役として働いていたからである。

満州で弟が3人生まれ、家族7人新京（今の長春）で何不自由ない生活を送っていた。しかしその生活も十二歳のとき旧ソ連軍の侵攻により一変した。「天と地の差ぐらい変わったの。農業開拓団の方達の苦勞とはまた質が違うのよね」

一九四五年、父親の転勤で牡丹江という都市で父と兄がいない時だった。突然旧ソ連の兵隊が押し寄せてきて、牡丹江の火薬庫が攻撃された。燃え広がった火が追ってきてあたりが赤くなる中、市民たちは訳もわからず逃げ惑った。和子さんたちはリュックに最低限必要なものだけを詰め、慌てて貨車に乗り込み哈爾濱（ハルビン）まで逃げた。

哈爾濱の中央銀行関係者が手配し

てくれた宿舎に入り、食料にも困らなかった。しかし収入がないため、働かざるをえなくなり和子さんや小さな弟たちですら働いた。また、宿舎には高価なものを奪いにしばしば囚人部隊が押し寄せてきた。「関東軍（旧日本軍の総軍の一つ）の兵隊さんたちはみんないいひんねん！」満州国は旧ソ連侵攻から終戦の日までいわば無法状態だったのである。

終戦後、日本に帰るために哈爾濱、新京、奉天、そして葫蘆島へと貨物列車で移動した。その引き上げの途中、和子さん兄弟は新京の社宅におり、和子さんは窓の近くにいた。外では、激しい戦闘が行われていた。一発の流れ弾が窓突き破って和子さんの体を貫通した。彼女自身はこう振り返る。「こんなところ（背中）に入っ

てここ（みぞおちのあたり）からパツと出て行ったんよ。やけどしたみたいな感じだね。熱いーと思ってその後の記憶はない」そして「今生きているのは奇跡だ」と語った。

受けた銃弾の怪我に加えて食料不足で栄養失調の危険もあった。それでも、なんとか命をつなぎながら

一九四七年、やっと日本に帰国した。「戦争っていうのは勉強もできひんし、食べ物もないし、遊ぶこともできひんし。子供なりの苦勞はしました」

私は以前、開拓団として満州に渡り残留孤児となった方の苦勞を聞いた。そして今回、「私たちは、みんなは食料がないらしいわって言いながら食事してたのよねえ」と複雑な気持ちを持つ和子さんを訪ねた。異なる視点から見た過去の記憶から現代人が学ぶべきは何なのだろうか。



（中央が和子さん）

第八回 インタビュー記録

「やっぱり私は加害者」

高橋 和子さん 2

裕福な満州での生活が一変し、追われるようにして1947年に日本に帰国した和子さん。のちに帰国した父は新しい仕事を見つけた。そして和子さんは鴨沂高校へ、弟たちもそれぞれ学校に通うことができた。高校卒業後は同志社女子大学に進んだ。

その後は結婚し、主婦業に専念した。しかし娘二人を育てる中で、消費問題に関心をもち、栄養士、消費者コンサルタントの資格を取り、京都生協を創立するなどの活動を活発に行った。

和子さんは今までの生活を振り返ったあと、こう語った。「私は加害者なん。ただ中国の人の土地を奪って、人を使って生活したか。犠牲になった人たちのことを考えたら私は加害者やと思う。これは重いこと。『被害被って大変だった』では済まされないからね。被害を与えたっていうことはあまり話したくない。でも歴史をみたら、やっぱり私は加害者やな」

現在の日本、そして未来の日本についての和子さんの考えを伺った。

「戦争して失うもんがどれだけ大きいか若者に気づいて欲しい」と語り、未来への不安も語った。「森友学園の問題で、幼稚園の生徒たちが私たちとおなじように教育勅語読まされてたって聞いてね。朕惟うに我が皇祖皇宗って。いやあ……」また、小さい頃に整列させられて日の丸の旗持たされた経験も話された。

私も、最近見た記事で違和感を感じたものがあつた。十一日に日本の海自機が中東海域で日本関係船舶の航行の安全を確保するために出発した時の一枚の写真である。飛行機に向かって日本の旗を振る人々を見てみなさんはどう感じるだろう。私には太平洋戦争の映画のワンシーンに見えた。

「とにかく、様々な視点から事実を集めてちゃんと考えて。そうせんと大変なことになる時期にまた来てるなって思う」彼女の言葉がずっしり重く感じる。

和子さんは「戦争はやって欲しくないっていうのはこれからも言うつもりです。その姿をみて何か感じて

くれたらいいなと思います」と最後に力強くそして優しく語った。



第九回 被爆者の証言

「生き地獄」 米津 鐵志さん 1

爆心地からたったの七五〇メートルの距離で、原爆を浴びた米津鐵志さん。宇治市で彼の体験を聞くことができた。

一九三四年生まれの鐵志さんは一九四五年、十一歳、妹が二人、弟も二人生まれ五人兄弟となっていた。鐵志さんは三年生の妹と一緒に集団疎開することになった。しかし疎開先は厳しく、妹は「お母ちゃん」と毎晩泣いていた。食料もろくになく、魚の餌であるサナギを食べってしまうほどだった。「ここは嫌だ」と母に手紙で訴ええると、家族で田舎に疎開することになった。

その疎開先で必要な日用品を母と

二人で取りに帰るため、広島駅へ向かった。八月六日の朝だった。広島駅から広電に乗り換えたが、車内超満員で母と手をつないでいるのがやっとだった。

電車が進み、当時広島で2番目に高い建物に差し掛かった時だった。「ピカーッとどこかで何かが光りました。それから、それまで聞いたこともないものすごい音がしました。」そして静けさに包まれた。

電車の中は血まみれの人々で溢れていた。満員電車の真ん中にいたからだっただろう。幸い鐵志さんと母に外傷はなかった。とにかく外へ出ようと、倒れている人を踏み越えるように電車を降りた。立っていた土埃が収まると、先ほど降りた電車が燃えているのがわかった。

歩き出すと、いろんなものが見えてきた。前を歩く女性の背中には大きなガラス破片が刺さっていた。血が流れていたが、本人は気づいていない様子だったという。皆逃げるのに必死で「助けて」と叫ぶ人がいても助ける人はいなかった。そんな状況だった。

しばらくすると激しい吐き気が

襲った。放射線障害の主な症状の一つである。そして喉が渴いたが「飲んだらあかん」と言われ、必死に我慢した。

あたりには火傷で皮膚がただれて、手の先から五十センチほども垂れ下がっている中学生や女学生が大勢いた。彼らは建物疎開と呼ばれる、建物の間引きをする作業をやっていた時にやられたのだ。「生き地獄」だった。

鐵志さんたちが疲れきってクスノキの下で休んでいると、タールのような雨が降ってきた。これに当たって亡くなった人がたくさんいる。「黒い雨」には放射能が含まれていたのだ。「あん時、ザーツと当たってた僕は今この場所にいなかったと思います」と鐵志さん。

動く気力のない二人、に通りかかった兵隊が「逃げましょう」と、無理やり上流に向かって連れて行ってくれた。そして、やってきた救援トラックに乗せてくれたが、その中は悲惨だった。「血まみれになっている人、骨折して血脂が出た人たちがいて、死んだ人もいるし、そんな人たちが低い声やら大きな声やらで

泣いたりして。それから匂いがないともたまらんです。また吐きそうになって。」信じられないようなことが、この日本で実際に起こっていた。



第十回 被爆者の証言

「事実を知ってほしい」

米津 鐵志さん 2

十一歳の鐵志さんは八月六日、あまりの酷さに、見たことについて感じたり考えたりすることすらできなかった。

「右側の斜め前にいた女の人が、目がぼっこり穴が空いてて、目玉が飛び出しているのを手で受けていました。母が頬を叩いてそつちを見たらかかんと言いました。」救援トラックでの出来事だ。

その後、救援列車で安芸矢口から志和口へ向かい、その日はそこで村

長の親戚の家に泊まった。やっとの思いで妹たちの待つている家にたどり着いたのは翌日の午後だった。

八月十五日、ラジオを聞いた大人たちが「日本が負けた」と言ったのを聞いて戦争が終わったのだと知った。母は「お父ちゃんが帰ってくる」と泣きながら鐵志さんに言った。戦争に負けて、皆がホッとした。

その翌日から翌々日、朝起きてみると枕カバーが髪の毛で真っ黒になっていた。そしてその日から高熱に襲われた。母も同じだった。「このまま死んでしまうんじゃないか」と思った。「もう死んだ方がましや、はよ死にたい」と叫んで包丁を喉に刺そうとしたこともあった。「母は身体中にアザができて、『お父ちゃんお父ちゃん』言いながら亡くなっていました。それで、自分ももうすぐ死ぬんだと思いました」九月一日、母が亡くなった。三七歳だった。

死を覚悟した鐵志さん。しかし、その二日後、また吐き気がして、回虫をたくさん吐いた。嘔吐がなくなると熱が下がり始めた。「きせきやなあ」親戚たちはそう言った。もう水を飲んでも吐かなかった。奇跡的

に回復したのだった。

しかし、鐵志さんが元氣を取り戻していく一方で、二歳にもならない妹は元氣が亡くなっていった。髪が抜け、泣く力さえなくなった。そして十月十九日、ちょうど母の四十九日の日になくなった。妹は放射能に汚染された母乳を飲んでいたので。鐵志さんは自身の著書「僕は満員電車で原爆を浴びた」に「アメリカの調査報告書には『残存放射能による被害は認められない』と書かれた。でも妹は死んだ」と書いている。

翌年、鐵志さんは中学生になったが学校には窓がなく、机も椅子もなかった。そこで鐵志さんが不思議に思ったことがあった。国民学校時代の友達と再会したが、その中に仲の良かった朝鮮人の友達が一人も見当たらなかったのだ。おかしいと思っ

当に事実を知ってほしいですね」

そして最後に「原爆は今、『原子力の平和利用』などと言われ、原発として再び日本にやってきました。呼び方を変えても核は核。人間の手に負えるものではないんですよ。絶対に安全なんかじゃない」と締めくくった。

私たち現代人は、彼らの言葉を聞いて何をどうするべきなのだろう。我々にはそれを考える義務があるのではないだろうか。

「戦時中の朝鮮の人たちの現実」

インタビュー活動をする中で、大きな衝撃を受けたことがあった。朝鮮の方々の存在である。

ある方はこう語った。

「今考えたらあんなことよくやったなということをいっぱいした。人間として扱わない。学校で、韓国とか中国を認めないような教育を受けた。それが当時の私たちにとっては当たり前だった。私たちの時代は朝鮮人を馬鹿にした。彼らはまともな職には付けなかった。いや、つかさなかつた。戦後初めて、そんなことはあっちゃいけないとわかった。で

も、私たちの年代にはまだ差別意識を持っている人もいる」

ショックだった。

朝鮮の人々への差別は広島でも起こっていた。

一九四五年八月、広島では約三五万人の人が原子爆弾によって被曝した。皆さんはその中に五万人もの朝鮮の人がいたことをご存知だろうか。

そして、さらに悲しく酷い事実を知った。被曝した広島市民のうち三七%の人が被爆が原因でなくなったのに対し、朝鮮の人々は被曝した人々のうち六〇%の人がなくなったということである。

戦争が激しくなると、小学生は集団で田舎へ疎開した。しかしその時、朝鮮の小学生はその集団には入れてもらえず、危険な土地に残ることを強いられた。そして、原爆投下後も朝鮮の人々は放射能で汚染された地域で生活をするしかなかった。

「日本国民にしてあげたのだから疎開などんでもない。命を惜しまず天皇様を守れ」という趣旨だったそう。彼らは無理やり日本に連れ

てこられ、命を守ることも許されず亡くなっていったのである。

ある方に、「あなたが今歩いてきた大通りあるでしょ。あれも朝鮮人がつくったのよ。」そう言われた。

私は、私たちが朝鮮の人々がつくった道を使って生活していることを初めて知った。毎日私たち日本人が使っている道を、誰かの通学路を、誰かの散歩道を、あなたが今日歩いてきたあの道、を誰が作ったかわかるだろうか。その道があるのは当たり前ではないことを私たちは知らなければいけない。平和で安全な道路。でもその誕生は決して平和ではなかったのかもしれない。

私たち日本人はみんな、過去に犯した過ちを背負って生きていかなければいけないのだと思う。それらの道路を使って生活している以上、責任は全ての人にあるのではないだろうか。きっとその重さを感じることがこれから同じ間違いを侵すことのない世界を作っていくための助けになるはずだ。

知らなかったということは許されることではないと思う。それでも、もう二度とそんなことをしない国に

するためにはどうしたら良いのか考へることは今からでも十分間に合う。私たちにできることは過ちを繰り返さないということだ。



「世界で一番愛する人です」と指さすのは養父だ
コラム集第一回、二回の林隆さん

「一緒に生きていきたい」

開拓団として両親が渡った満州で生まれたが、終戦後満州残留孤児となった林さん（詳しくはコラム集第一回、第二回）。彼のインタビューをさせていただいて、私たちはこのままではいけないと思った。

「僕たち、中国残留孤児、毎日思っ

てる。日本人違う。」林さんは声を出して笑ってからもう一度「日本人違う。」とおっしゃった。

「あの、どういふところが違うんですか。」

私が聞くと林さんは目をそらし、長い間沈黙が続いた。そして咳払いを一つしてからこう言った。

「……………差別……………」

私はどう捉えたらいいのか、そしてどのような言葉を返したら良いのか分からなかった。

職場では「中国人」と呼ばれ、彼の子供も日本語ができないことを理由にいじめられた。生活保護や年金も十分でない。

私たち日本人はなぜ祖国に帰ってきた彼らを迎え入れ、一緒に生きて行くことができなかったのだろうか。今は一緒に生きていると言えるのだろうか。

私は林さんにお話を伺うまで、彼らの実態をほとんど知らなかった。だが今回、私は彼と出会って知ることができたのだから、私が知ったことを誰かに伝えていく。

彼らが人生を終える時、「日本へ帰ってきて本当に良かった」と心か

ら思ってもらいたい。

「誰が加害者なんだ？」

十二年生の七月、宇治でアッシュ・キリエ・ウールソン氏の講演会に参加した。イラク戦争の帰還兵である（詳しくはコラム集第四回、第五回）。

彼の話を聞いて思った。「彼は確かに加害者である。だが彼は同時に被害者でもある」と。彼も心に傷を負っていたからだ。

誰が被害者なのかという疑問はずっと持ってきた。

資料館でクラスター爆弾を見た時、最初はその爆弾を落としたアメリカ軍兵士に怒りを覚えた。だがよく考えてみると、その兵士だけが悪いのではない。では憎むべきはその兵器の開発者か？ いや、そのために莫大な研究費を出しているアメリカ政府？ だがそのメンバーを選んでいるのは国民だ。ならば国民を恨めばいいのか。私はアメリカの国民に恨みをぶつけるのか？ おかしな話だ。

アレン・ネルソンの「ネルソンさんあなたは人を殺しましたか？」を

読んだ時も加害者が誰なのか分からなくなった。

ある少女が彼に聞くシーンがある。

「ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか？」

彼は沈黙の後「YES」と静かに答えた。

少女はその言葉を聞いて「かわいそうなネルソンさん」と涙を流した。……。

毎日飢える苦しい生活を逃れ、「英雄になろう」と勧誘され、アメリカ軍隊に入ったネルソン氏。学費を賄うために州兵となったウールソン氏。その他、苦しい生活を変えようと軍に入った若者たち。彼らは被害者なのではないだろうか。

一方で、どんな理由があろうと人を殺した罪は殺した本人の罪であるということは変わらない。どんなに彼らがかわいそうな人々であろうと、殺人を犯したという事実から逃れることはできないのだ。

本当の加害者は？ 悪いのは誰？ それは、「加害者が被害者でもあり、その加害者もまた誰かの被害者であ

る」そんな状況を作り、許してしまっている世界、そんな社会を作っている私たち一人一人なのだろうか。

「あの頃と似てゐるって？」

「事実をしつかり学んで、暮らしを作り上げていかんと大変なことになる時期にまた来てるなっと思う。十五年前までぐらいは安全にきてたんやけどね」

「私たちは戦前に戻ろうということとを危惧する。『戦争の足音が近づいてくる』という風に私たちは言いますけどね」

インタビューさせていただいた方々は口を揃えて「あの頃に雰囲気 が似てきた」と語る。あの頃とは戦前のこと。戦争が始まりそんな雰囲気を私たちは感じ取ることはできない。だから今という時代がどれぐら いどのように危険なのかということ を、自分自身でつかむことはできないのだと思う。だが、人間は言葉を持つている。だから次の世代につな げることができる。私たち自身では 気づきにくくても、実際に戦前を生 きてきた人たちから話を聞くことが

できる。私は卒プロを始めて、たくさんの人に出会い、様々な言葉によって色々なことを学ぶ中で、「あの頃に似ている」という言葉の意味を理解してきたつもりだ。

戦後長い間守ってきた憲法九条を改正するという話がその一つである。また、教育勅語を読んだ幼稚園があるとき、似ているところではなく「当時と同じ」ではないかと思った。

どうしたら戦争経験者の方々の危機感が私たち若い世代に伝わるのだろうか？ 私にもわからない。しかし、実際経験している方たちが言うのだから間違いないということはわかる。だから私たちがいくら「まだ大丈夫だ」と思っているでも戦前を生きた人たちが「危ない」というのなら危ないだろう。彼らの言っていることは私たちが思っているよりもずっと重要なことで、本当に戦前に逆戻りしているのかもしれない。その可能性を、私たち若い世代はもっと真剣に考える必要があるのではないだろうか。

「平成は平和だったと言うが、私には戦争を始める準備期間のように

思えた」という高橋さんの言葉が、今でもぐるぐると私の中を回っている。



コラム集第三回、四回の村上さん（前列中央）
後列中央は亡くなったお兄さんたち

「戦争が奪うもの」

「戦争が奪うもの？ それはね……全てです。」（八月、村上さん）
戦争は彼らから何を奪ったのだろうか。私たちから何を奪うのだろうか。

十一年生の夏のインタビュー。

「僕は逸れて、とにかく学校に行こうと思って、僕の通ってた小学校に行ったんです。僕はびっくりした。グラウンドが死体置き場になって、あちこちの死体から煙が上がった。臭かったな。……。校門のところではばらくそれを眺めとった。」そんな風に語る男性がいた。頼ってやってきた小学校。だが、少年にとってはもうかつての小学校ではなかった。彼の小学校は永遠に奪われたままである。

三月の村上さんのインタビュー。

「戦争は兄を奪いました。五十年経った今でもよく考えるんです。もしも生きていてくれたらってね。生きていて欲しかった。」そう語った。

彼女は広島で被爆したが、外傷はなく、他の人の看病に当たっていた。その中に五歳ぐらいの男の子がいた。その子も腕が火傷で爛れ他の人もやっていたように腕の上に突き上げていた。

「お母さん、お母さん」絶えずつぶやいていた。だが、その子はいつに母に会うことなく死んだ。涙を浮かべながら。

「あのとき、なくなる前に一度でもその子の母の代わりに『大丈夫よ』って抱いてあげればよかったと後悔したりする。」無念の気持ちを語った。その子はなぜ母を奪われなくてはいけなかったのだろうか。母にも会えず、孤独に死んで行かなければいけなかったのだろうか。

少年の小学校を奪った戦争。

村上さんのお兄さんを奪った戦争。

お弁当を食べるということを奪った戦争。

五歳の男の子の母を、そして命を奪った戦争。

家族、友達、あらゆる人々の命を奪う戦争。

戦争が奪うものは全て、誰かの大切なもの、愛する人。

小さな幸せ、ささやかな喜び。あの人、この人、あなた、私、どんな人の幸せも一瞬にして奪われうる。

「戦争が奪うもの？ それはね……全てです。」

介護保険業務の 様々なご要望にお答えします 介護保険トータルシステム「Rely III」 株式会社 アール・シー・エス 高松市錦町2丁目2番17号 西日本放送錦町ビル TEL: (087) 804-8811 FAX: (087) 826-5010	はじめて まいたんメール便 です 高松メールセンターからのご案内 メール便... ハガキ 封書 カタログ など 激安価格で 配達します お問い合わせは こちらから 四国メールネットワーク協同組合 (有) タウンネット 高松メールセンター 高松市朝日町4丁目10番60号 TEL: 087-813-0426 FAX: 087-813-0436 E-mail: takamatsu@carol.ocn.ne.jp http://www.shikoku-mp.com/	www.sanuki-taberu.net 讃岐を 食べると なつと こだわりの「うまいもん」を直送します! www.sanuki-taberu.net 株式会社 ウエイ企画 〒760-0062 香川県高松市堀上町7-2 TEL: 087-837-1159 FAX: 087-897-3007 コーポレートサイト http://www.network-way.com
あいおいニッセイ同和損保代理店 (株)フリーエージェント *損保・生保・社会保険労務士* 扱っています。 高松市伏石町 2028-2 TEL 087-816-8123 FAX 087-815-1171	ハイエース・シエンタ・エスクアアなど 福祉車両のことなら 香川トヨペットにお任せください! Welcab 香川トヨペット 定休日 月曜日 本社/高松市香西南町577-2 https://www.kagawa-toyopet.com/ 詳しくは香川トヨペットまでご連絡ください。 087-882-5561	総合印刷・イベント事業・マニュアル制作 デジタルコンテンツ企画制作 SEIKO SHA 株式会社 成光社 高松 東京 〒760-0065 高松市朝日町5-14-2 TEL 087-823-0222 FAX 087-823-0211 www.seiko-sha.co.jp
実務者養成施設 介護福祉士実務者研修 < 通信課程 > ★4月から翌年3月まで毎月受付 「年12コース」各コース定員24名 ★全国どこからでも応募できます ★スクリーニング(通学)は 「医療のケア演習」を含み6.5日間 【照会先】 ラポールカレッジ 研修所/事務局 TEL 087-815-0760 〒761-8052 高松市松並町802番地1/日本ケアシステム協会内 駐車場有り(無料)/宿泊1,000円～	地域とともにこれからも。 あつて おはなしする もつと つたあるね 香川銀行 トモニホールディングス	消防設備士の店 四国防災設備 有限公司 消防設備保守点検 〒761-0612 香川県木田郡三木町氷上1833-6番地 TEL (087) 898-3913 FAX (087) 898-8801

ご利用ください。

● E-mail (電子メール) ●



magokoro@hyper.ocn.ne.jp

● URL (ホームページ) ●



http://www.jp-care.gr.jp

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

まだまだ大変な時期ではありますが、皆様体調は大丈夫でしょうか? 2020年はコロナ禍でオリンピックが延期され、遠出や旅行が出来なくなり、気軽に友達や親戚と会えなく辛く大変な年だったと思います。長かったようで、あっという間に1年が過ぎて行った気がします。

コロナウイルスの終息も見込めない状況ですが、去年以上に「自らの命は、自らが守る」ことを意識して過ごしていきましょう。

2021年も利用者様、会員の皆様にとって素晴らしい一年になります事を、心よりお祈り申し上げます。

全国まごころケアネット
特定非営利活動法人 日本ケアシステム協会
まごころケアサービスセンター

センターの名称	住 所	Eメール	TEL	FAX
本 部	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-815-0771	087-815-0773
まごころケア旭川	〒070-0037 北海道旭川市7条通8丁目セントラル7条ビル202号室	magokoro@tmt.ne.jp	0166-26-8639	0166-74-3172
まごころケア塩釜	〒985-0043 宮城県塩釜市袖野田町39-2	jms@cocoa.ocn.ne.jp	022-362-2030	022-362-3303
まごころケアサービス 福島センター	〒960-2262 福島県福島市在庭坂宇南林60-2	magokoro@safins.ne.jp	024-573-7539	024-591-5441
まごころケアサービス 二本松センター	〒964-0903 福島県二本松市根崎1-9	kuwabara.masaaki@ivory.plala.or.jp	0243-22-0112	0243-22-0112
まごころケア国見	〒969-1761 福島県伊達郡国見町大字藤田字南54-2	magokoro923@yahoo.co.jp	024-585-5923	024-585-5924
まごころケア千葉	〒262-0033 千葉県千葉市花見川区幕張本郷1-23-15 グランドウール第2-107号	magokoro12315@nifty.com	043-274-9711	043-274-9718
まごころケア京田辺	〒610-0331 京都府京田辺市田辺北川44番地	sqkg13630@eto.eonet.ne.jp	0774-64-3722	0774-64-3722
まごころサービス 岡山センター	〒703-8232 岡山県岡山市中区関19番地1	magokoronowa@mx4.et.tiki.ne.jp	086-278-2926	086-278-2966
まごころサービス 倉敷センター	〒706-0001 岡山県玉野市田井3-12-18	rappyon@lime.ocn.ne.jp	0863-31-6640	0863-31-5110
まごころケア高松	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-865-8001	087-865-8039
まごころケア国分寺	〒769-0102 香川県高松市国分寺町国分1284-1	ajisai@eagle.ocn.ne.jp	087-874-6625	087-874-6685
まごころケアにこにこ三豊	〒767-0001 香川県三豊市高瀬町上高瀬1883-1	nikoniko-mitoyo@shirt.ocn.ne.jp	0875-73-6750	0875-73-6751
まごころケア丸亀	〒765-0032 香川県善通寺市原田町1317-7	tyusan.n-377-p4376-o@wing.ocn.ne.jp	0877-64-0278	0877-64-0279
まごころケア屋島やすらぎ	〒761-0111 香川県高松市屋島東町1414	mail1ka1584yasuragi@swan.ocn.ne.jp	087-843-9590	087-841-3853
まごころケアサービス 大川センター	〒761-0904 香川県さぬき市大川町田面1198	okawa@samariya.or.jp	0879-43-3191	0879-23-2712
まごころケア西春日	〒761-8051 香川県高松市西春日町1510番地1	keisuke64kasai@gmail.com	087-869-1165	087-869-1195
まごころサービス 徳島センター	〒770-0923 徳島県徳島市大道3丁目22-1	magokoro@coral.plala.or.jp	088-624-6578	088-624-6585
まごころケア ぽっかぽか川之江	〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町1660-1	tani280610@yahoo.co.jp	0896-59-1150	0896-59-1150

「日本ケアシステム協会」会報
令和3年1月1日 発行No.154

発 行 所 〒761-8052 高松市松並町802番地1
TEL087-815-0771 FAX087-815-0773
編集発行人 兼間 道子
郵便振替 口座番号 01610-0-92689
印 刷 所 (株)成光社

まごころケア高松
NPO法人 長寿社会支援協会

〒761-8052 高松市松並町802番地1
TEL087-865-8001 FAX087-865-8039
E-mail magokoro@hyper.ocn.ne.jp
URL <http://cho-jyu.info/>